

# 京都府流域下水道事業経営審議会第7回投資部会（開催結果）

1 日 時 令和7年11月11日（火） 午後3時～4時15分

2 場 所 京都ガーデンパレス「葵の間」

3 出席者 委員 田中部会長、岩崎委員、川池委員、藤木委員  
(5名中4名出席) ※西垣委員が欠席

京都府 渡邊建設交通部技監、曾和建設交通部公営企業管理監兼副部長、  
吉本流域下水道事務所長、西崎公営企業経営課長、工藤下水道政策課長 他

## 4 結果概要

- 「京都府流域下水道事業経営戦略」中間見直し（最終案）について  
パブリックコメント及び関係市町からの意見への府の回答、並びにこれらを踏まえて修正した最終案を投資面から審議
- 「第1回下水道管理のあり方検討部会」の開催結果を報告

## 5 主な意見

- ・ 大阪湾・淀川流域別下水道整備総合計画（流総計画）の改定において負荷量削減の基準が緩和されたが、環境省の第10次総量削減計画で許容される排出負荷量全体は維持される見込であること、今後、底層DOの達成も含めて栄養塩類の順応的管理が行われる見通しであること、府の流域下水道は下流の水道水源に対して十分配慮が必要であることを踏まえ、関連する施設増設を実施する際の処理水準については順応的管理手法により慎重に議論されたい。
- ・ 木津川上流の7系増設の必要性に関しては、今後の人口の変動と流量の増加要因についても一度精査したうえで結論を出されるべき。
- ・ 下水道管理のあり方検討部会での議論には、投資・財政部会に関連するものも多いため、検討部会の進捗状況は適宜報告していただきたい。
- ・ 木津川上流に水処理施設7系を増設するのであれば、人口や流量という視点からの検討に加え、酸素法を採用しているという特徴に鑑み、処理方式についてもよく検討されたい。
- ・ 経営戦略中間見直し中間案にある図において、接続人口、行政人口、処理人口の表記が混在している箇所があるため、誤解を招くことがないよう確認すべき。
- ・ パブコメにもある通り、管路等の老朽化対策は府民の注目するポイントのように思われるが、府としては、これまで実施してきた取組に加え、国の検討委員会での議論を踏まえながら対応していくということか。
- ・ 下流の水道水源のため災害による長期機能停止を避ける必要があることから、地震対策や老朽化対策にしっかりと取り組んでいただきたい。
- ・ 八潮市の事故をうけて、国が下水道の老朽化対策に重点的に補助金交付を行うようであれば、府も当該制度の積極的な活用をすべき。
- ・ 雨天時浸入水対策について、流量計測の信頼性を高めていくとともに、関連市町との信頼を深めていくような取組を行っていただきたい。

以上